

## 2) 地上気象

計画地内で測定した風向風速の観測結果を表 4.1-11 及び図 4.1-2 に示す。

計画地では、西寄りや東寄りからの風が多く確認される一方で、北寄りや南寄りからの風はほとんど確認されなかった。

表 4.1-11 地上気象調査結果【計画地内】

調査項目		単位	冬季	春季	夏季	秋季	4季平均値
風速	期間平均値	m/s	4.8	3.4	2.1	2.1	3.1
	1時間値の最大値		13.7	8.8	4.9	7.4	8.7
	Calm 率	%	1.2	1.8	1.2	2.4	1.7
最多風向		—	NW	E	ESE	ENE	ESE
気温	期間平均値	℃	1.6	10.5	24.1	13.3	12.4
	1時間値の最大値		10.3	21.2	34.2	20.2	21.5
	1時間値の最小値		-5.5	6.6	18.1	6.6	6.5
湿度	期間平均値	%	76	82	87	79	81
	1時間値の最大値		100	100	100	100	100
	1時間値の最小値		52	33	59	40	46
日射量	期間平均値	kW/m <sup>2</sup>	0.04	0.19	0.28	0.14	0.16
	1時間値の最大値		0.54	1.04	0.96	0.79	0.83
	1時間値の最小値		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
放射収支量	期間平均値	kW/m <sup>2</sup>	-0.003	0.081	0.127	0.042	0.062
	1時間値の最大値		0.136	0.739	0.570	0.463	0.477
	1時間値の最小値		-0.051	0.076	-0.080	-0.126	-0.045

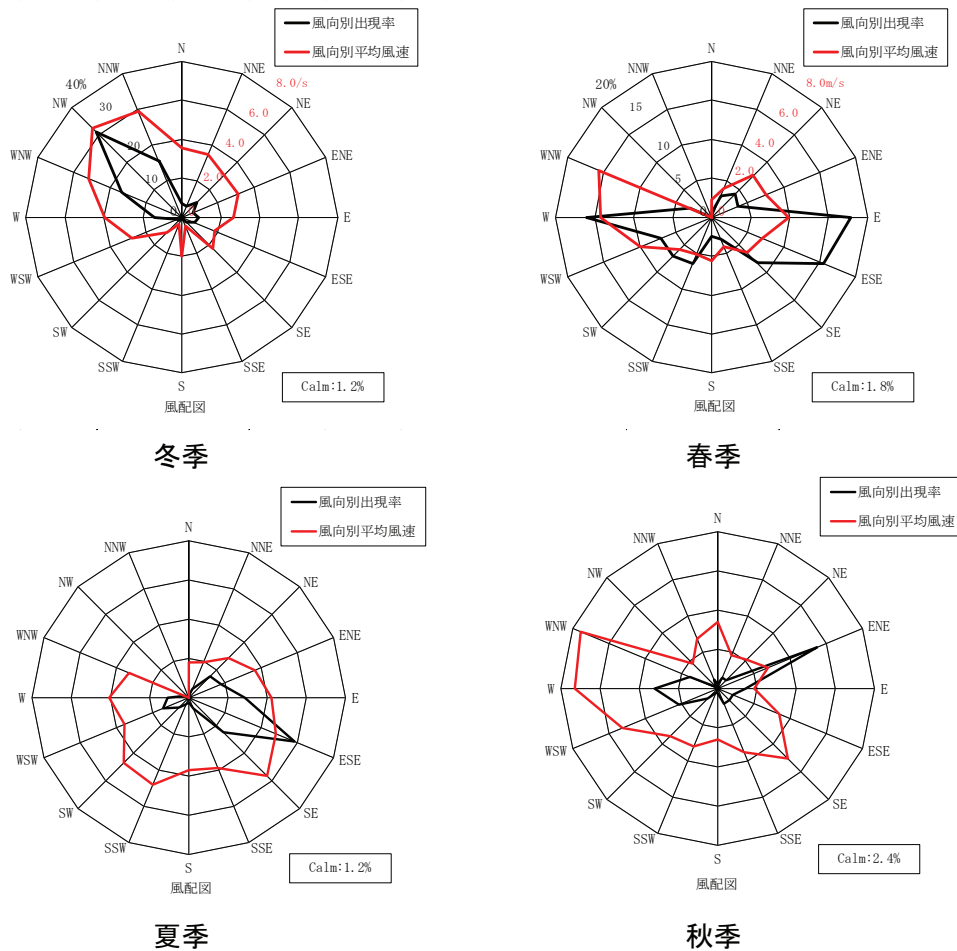


図 4.1-2 地上気象調査結果（風配図）

### 3) 上層気象

#### ① 気温の鉛直分布

上層気象の調査結果として、図 4.1-3 に示す逆転層の分類に従い、冬季及び夏季の逆転層の出現頻度を表 4.1-12 に整理した。また、気温の鉛直分布（対象時刻ごとの平均値）を図 4.1-4 に整理した。

冬季は逆転層の発生頻度は少なく、夏季は上層逆転が比較的多く確認された。

表 4.1-12 逆転層の出現回数

時期	時間帯	観測時間	下層逆転	全層逆転	上層逆転	逆転なし	合計
冬季	昼間	9:00	1	1	0	5	7
		12:00	0	0	0	7	7
		15:00	0	0	0	7	7
	夜間	18:00	3	0	0	4	7
		21:00	3	0	0	4	7
		24:00	2	1	0	4	7
		3:00	1	1	0	5	7
		6:00	2	0	0	5	7
夏季	昼間	6:00	0	0	2	5	7
		9:00	0	1	3	3	7
		12:00	0	0	1	6	7
		15:00	0	0	2	5	7
		18:00	0	0	4	3	7
	夜間	21:00	2	1	4	0	7
		24:00	1	1	4	1	7
		3:00	1	0	3	3	7

注 1：逆転層区分の指定高度は 100m として、逆転層が指定高度より低い場合を下層逆転、指定高度をまたぐ場合を全層逆転、指定高度より高い場合を上層逆転として集計した。

注 2：下層逆転と全層逆転が同時にみられた場合は、下層逆転と分類した。

注 3：全層逆転と上層逆転が同時にみられた場合は、全層逆転と分類した。

注 4：上限高度は 500m に設定し、これより高い高度で観測された逆転層は「逆転なし」に区分した。

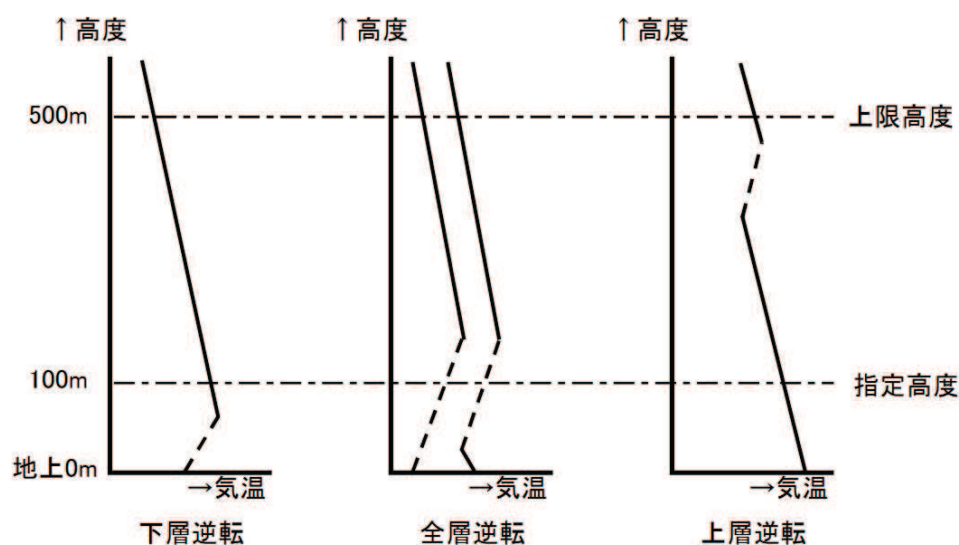


図 4.1-3 逆転層の種類

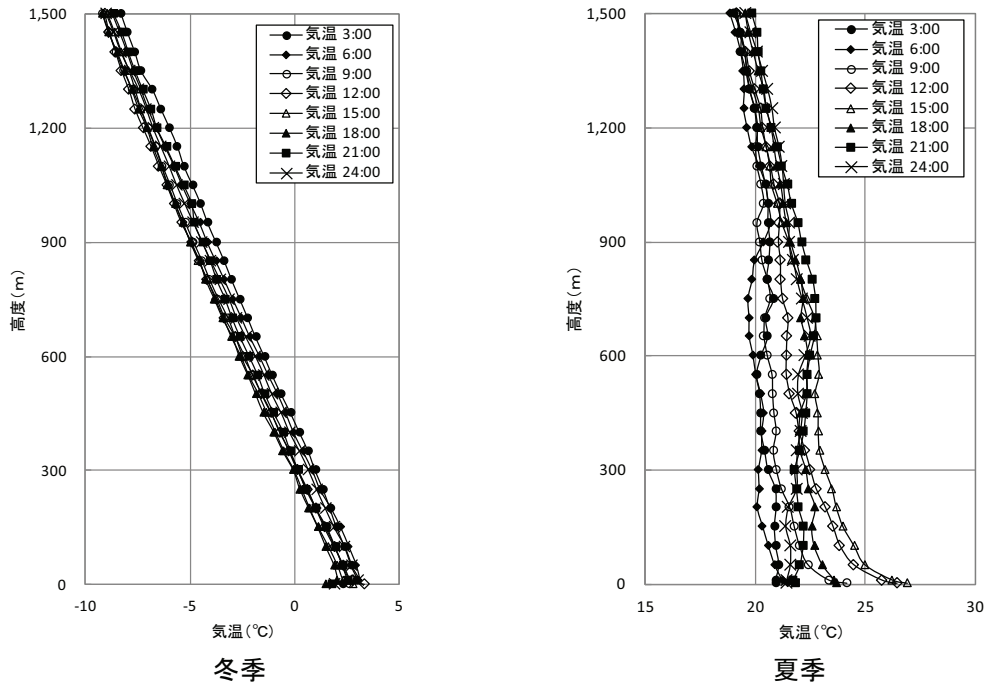


図 4.1-4 気温の鉛直分布

② 風速の鉛直分布

上層気象調査について、風速の鉛直分布を図 4.1-5 に示す。

冬季は、高度に関係なく西よりからの風が多くみられ、上空になるにつれて風速が高くなる様子が確認された。

夏季は、南～東よりからの風が多くみられ、風速については 500m 付近で高くなる様子が確認された。

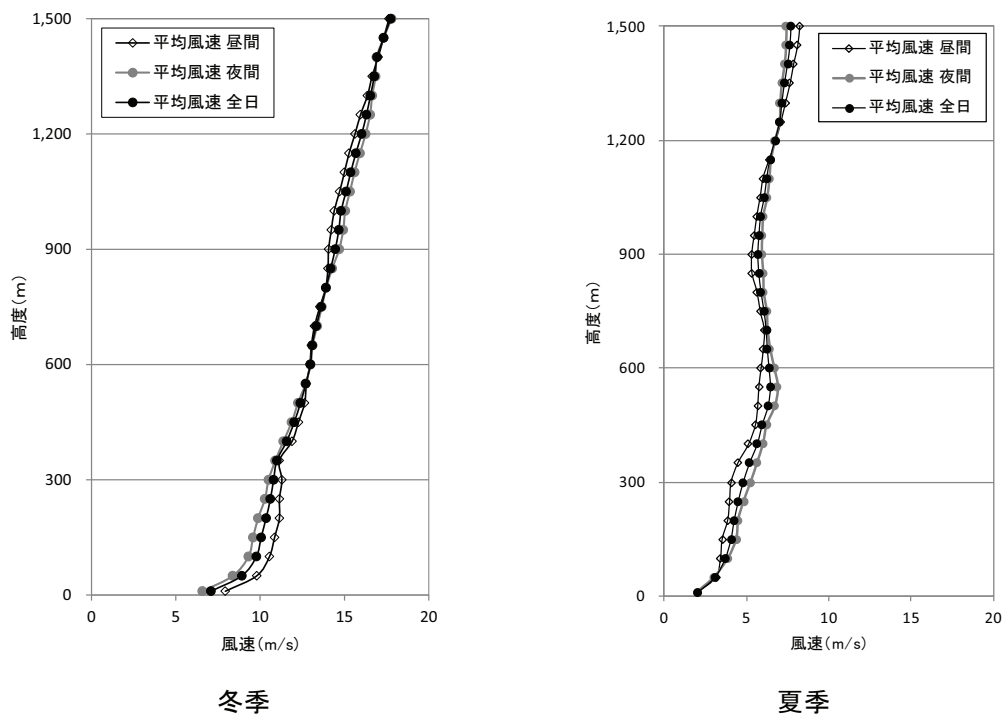


図 4.1-5 風速の鉛直分布

### 1.3 予測及び影響の分析

大気質では、煙突排ガスの排出による影響及び廃棄物運搬車両の走行による影響について、予測及び影響の分析を実施した。

#### 1.3.1 煙突排ガスの排出

煙突排ガスの排出による影響に関する予測及び評価は、長期平均値（年平均値）、短期平均値（1時間値）について行った。

##### (1) 予測項目

###### 1) 長期平均値（年平均値）

二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質及びダイオキシン類とした。

###### 2) 短期平均値（1時間値）

二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質及び塩化水素とした。

なお、短期的な高濃度が発生する条件は、不安定時の他、上層逆転層発生時とした。

##### (2) 予測地域及び予測地点

###### 1) 長期平均値

予測地域は図 4.1-6 に示すとおりであり、予測地域は、煙源を中心とした 3km 程度の範囲とした。

なお、煙突の位置は安全側の評価とできるように、予測結果が高めの値となる計画地内の東側（敷地境界）の位置に配置した。

###### 2) 短期平均値

予測地域は、煙源の風下側とした。

##### (3) 予測対象時期

長期平均値及び短期平均値のいずれも、施設が定常的に稼働する時期とした。



凡例

● : 煙突の位置



1:40,000

0 500 1,000 2,000 m

背景図) 国土地理院「1/50,000 地形図 (むつ、近川)」

図 4.1-6 長期平均値の予測範囲 (図面の表示範囲)